

兵庫県のツチハンミョウ

(兵庫県甲虫相資料・104)

高 橋 寿 郎

ツチハンミョウ科 (Meloidae) に属する甲虫類は異形変態をおこなうので良く知られている。またその幼虫は蜜蜂類の巢内又は蝗虫類の卵塊等に寄生するが、寄生経路が大変面白いことから多くの観察報告が発表されている。

兵庫県下に産するこの仲間は種類数が大変少ないし、余り良く調査されていないグループの一つともいえよう。分布に就いても記録がそれ程無いので県下にどの様にいるのかも現時点ではよくわからない。一応今迄の知見をまとめて置き度いと思う。

三輪勇四郎博士は“本邦産地臈科 (Meloidae) の研究”と題する論文を1928年に発表された (その中でその当時迄の本科の研究史も述べられている) (Trans. Sapporo Nat. Soc. X, 1:63-78, 1928)。河野広道博士は“日本動物分類, 地臈科” (東京・三省堂) を発表されわが国のこの仲間の総括をされているし、中根猛彦博士は原色図鑑でまとめられた (1963)。

従って兵庫県に産するこの仲間の同定はこれ等文献で充分出来ると考える。

現在の日本産は総括的なモノグラフがないので何種類いるのか一寸わからない。中根博士によると概数19種となっている (1972)。

生態についてはキイロゲンセイについて岩田久二雄博士 (Mushi, 第6巻, 第1号, P. 4-24, 2 pls. 2 figs. 1933)。オオツチハンミョウ, マルクビツチハンミョウ, ヒメツチハンミョウ, キイロゲンセイに就いて榊田氏 (Mushi, 17巻, 10号, P. 61-76, pl. 2-4, 1947)。マメハンミョウに就いて永富, 岩田氏 (Mushi, 31巻, 4号, P. 29-46, pl. 4, 1958)。木船氏はキイロゲンセイ, ツマグロキイロゲンセイについて (Mushi, 35巻, 6号, P. 51-61, 1961) の夫々貴重な報文があるが更に一般向きの読物としても榊田氏の“ツチハンミョウ物語” (日本昆虫記, IV, 甲虫の生活, P. 4-40, 1959) に大変くわしくこの虫の生活を紹介されているし、岩田博士の“自然観察者の手記” (1975) の中でもキイロゲンセイのことにふれた“カリコドマと樹脂の巢”と云う観察文がある。

Family Meloidae ツチハンミョウ科

1. *Meloe auriculatus* Marseul, 1876 キュウシュウツチハンミョウ
Marseul氏により“Hiogo, Osaka.”を産地に (G. Lewis 氏の採集品) 記載さ

れた種である (Ann. Soc. Ent. Fr., 5, VI, P. 480-481, 1876)。

三輪勇四郎博士は北海道, 本州各地, 朝鮮の京城及水原産で記録された (札幌博物学会々報, 10巻, 1号, P. 71-72, 1928)。

幼虫の寄生は未知だが恐らくハナバチ類の巣に寄生するものだろうとのことである。

本州の近畿以西・九州に分布とあり四国の産否は不明とある (中根, 1963)。次種ヒメツチハンミョウに良く似ている。その区別点は中根博士が詳しくのべられている (1963)。県下での記録の少ない種である。

産地: 兵庫 [Marseul, 1876]* 神戸市烏原 (1♀, 27-IV-1973)。多可郡三谷 (1♂, 19-IV-1975)。豊岡市妙楽寺 [高橋, 1975]。

2. *Meloe coarctatus* Motschulsky, 1857 ヒメツチハンミョウ

Motschulsky氏によりJapanから記載された (Etud. Ent., VI, P. 35, 1857)。Marseul氏はG. Lewis氏の採集したNagasaki産を記録された (I. C., P. 481-482, 1876)。その後三輪博士は北海道, 本州の産地を記録された (I. C., P. 72, 1928)。

本種が北海道に産するのかどうか良くわからない。中根博士によると現在の分布は本州, 佐渡島, 伊豆諸島, 四国, 九州, 対馬となっている (1963)。

兵庫県下では案外と記録が無い。神戸市内では春から初夏の候割合多く見ることが出来るのもっと広く分布していると考えられる。

幼虫はハナバチ類の巣に寄生する。幼虫は晩秋に出現し, 成虫で土中越冬, 翌春より初夏にかけて出現し産卵すると。

産地: 洲本市先山 [堀田, 1978]。川西市大和 [仲田, 1979]。神戸市烏原 (1♀, 29-IV-1970, 1♀, 9-V-1971, 1♂, 28-V-1972, 1♂, 15-IV-1979, 1♂, 29-II-1980, 1♀, 23-IV-1980, 1♀, 14-V-1980, 1♀, 29-V-1980, 1♂, 11-IV-1981, 1♀, 12-IV-1981, 1♀, 23-IV-1981, 1♂, 1-V-1981, 1♀, 4-V-1981, 2♀♀, 5-V-1981, 1♂, 8-V-1981, 1♀, 10-V-1981, 1♀, 13-V-1981, 1♂, 3♀♀, 16-V-1981, 2♀♀, 19-V-1981, 1♀, 20-V-1981, 2♀♀, 21-V-1981, 1♂, 22-V-1981, 2♀♀, 25-V-1981, 1♀, 26-V-1981, 1♀, 27-V-1981, 1♀, 29-V-1981, 1♀, 30-V-1981)。

*産地で [] の中のものは記録の引用。 () の中のものは筆者所有標本。

再度山(1♀, 8-VI-1981), 山の街(2♂♂, 9-X-1955). 氷上郡〔山本, 1958〕. 出石郡伊東町中藤〔高橋, 1963〕.

3. *Meloe corvinus* Marseul, 1876 マルクビツチハンミョウ

Marseul氏により“Nagasaki et Hiogo”を産地に(G. Lewis氏の採集品)記載された種である(I. C., P. 482-483, 1876).

三輪博士は日本での記録並びに南満州の産も報ぜられた(1928).

本種の分布も可成り広く北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬, 樺太, 朝鮮, 満州が知られている。

兵庫県下での記録は大変少ない。よく分布のわからない種である。幼虫はヒゲナガバチその他のハナバチ類の巣に寄生すると云われている。

産地: Hiogo〔Marseul, 1876〕, 神戸市御影〔関, 1933〕, 山の街(1♂, 1♀, 11-IV-1954)。

4. *Epicauta gorhami* Marseul, 1873 マメハンミョウ

Marseul氏によって“Nippon, Nagasaki”産で記載された種(Ann. Soc. Ent. Fr. 5, III, P. 227-228, 1873)である。

幼虫はイナゴなどの卵塊に寄生, 成虫は夏から秋にかけて発生, 種々の雑草, 野菜などの葉を食べるとあるが残念ながら筆者県下で採集したことがない。僅に次の記録を知るのみで県下にどのように分布しているのか今後の調査による所が大きい。

産地: 神戸市御影〔関, 1933〕。

5. *Zonitis japonica* Pic, 1910 キイロゲンセイ

Pic氏が京都産で記載されたものである(Bull. Soc. Ent. Fr., P. 90, 1910)

Marseul氏は*Zonitis pallida* Fabricius (Ent. Syst. IV, App., P. 447, 1794)としてG. Lewis氏の採集品で“Nagasaki; rare”を産地に日本から記録された(I. C., P. 222, 1873)。

三輪博士は*Z. japonica*も台湾から記録された*Z. geniculata*も*Z. pallida*と同一種であるとして, *Zonitoschema*属で分布を東印度, 本州, 九州, 台湾, セレベスとして記載された(I. C., P. 75-76, 1928)。現在は上記学名に取扱われ分布は本州四国, 九州, 伊豆諸島, 屋久島, 台湾となっている。

幼虫はオオハキリバチの巣に寄生し, 成虫は7~8月に出現。野外ではイヌザンショウの花

に好んで集りとあるが筆者は野外での採集経験をもたない。燈火に飛来したのを採集しただけである。この種も県下での記録はそう多くない。調査不充分のためであろう。

産地：洲本市先山〔堀田，1978〕。川西市大和〔仲田，1970，1978〕。加西市畑（1♂，1♀，13-VII-1974，1♂，1♀，27-VII-1974）。氷上郡〔山本，1958〕。出石郡伊東町佐々木〔高橋，1963〕，松ヶ枝〔高橋，1975〕。

6. *Horia tosana* Kono, 1936 トサヒラズゲンセイ

本種の幼虫はクマバチの巣に寄生し河野広道博士によって1936年新種記載された種なのである（*Ins. Mats.*, X, 3, P. 96, 1936），同時にP. 97に新種記載された *Cissites* (*Synhoria*) *sasakii*, ササキトビイロゲンセイ（ササキヒラズゲンセイ）が実は本種の♂であり *H. tosana* は♀に当る。高知県産で記載され，高知を代表する虫として知られていたがその後産地が次々と知られるようになった。四国では徳島県，九州では鹿児島県，沖縄といわゆる太平洋岸にのみ知られていた。登日邦明氏は淡路島から記録された。恐らく本種の分布の北限になるのであろう（和歌山県有田市でも記録があるようでこちらは東限になるのであろう，*Kinokuni*, №16, 1979）。

本種の生態に就いては詳しくわからないが高知昆虫同好会の皆さんの努力で或る程度の報告がされている（げんせい，2巻，1・2号，1953，3巻，1・2号，1954，第38・39号，1980）。

今の所県下では淡路島以外の記録はない。

産地：洲本市金屋〔1♀，1-VII-1977，Kubota leg.，登日，1980〕。

以上兵庫県産のツチハンミョウ類6種の県下の分布を眺めて見たがどうも資料が大変不足しているようでまだまだ調査の必要性を痛感している。

末文で大変申し訳無いがPARNASSIUS 15周年記念号に拙文を発表して頂ける機会を与えて下さいました登日邦明氏の御厚意に心より御礼申しあげさせて頂きたい。

（10-I-1982）